

令和2年度 自己点検・自己評価総括表及び学校関係者評価表

カテゴリー		評価項目		評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価	
I 教育理念・教育目的		1-1	教育理念・教育目的は自養成所の教育上の特徴を示している。	3	2.6	設置主体である労働者健康安全機構の理念は、文章化して明示しており、学生便覧や学校案内等で具体的に示している。	3	2.6	自己評価について支持する	
		1-2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。	3		保健師助産師看護師法、学校教育法、専修学校設置基準、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づいている。	3		自己評価について支持する	
		2-1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	3		教育目標をさらに段階的に明示し、学年別到達目標として学生便覧で示している。学生の動機づけとして年度当初に説明している。	3		自己評価について支持する	
		2-2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	3			3		自己評価について指示する	
		3-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	3			3		自己評価について支持する	
		3-2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるかを述べている。	3			3		カリキュラム改正を機に、検討すること	
		3-3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるかを述べている。	2		教育理念・目的の文章に明確な記述はないが、教育課程編成の考え方や実習要項に教育環境の整備について、体制を整えていることを記述している	2		カリキュラム改正を機に、教育理念、目的を教員全員で検討し共通理解することで活動指針とすること	
		4-1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	2		人間、健康、環境、看護の概念を検討した上で、教育目的、教育目標、教育内容を具現化したものになっているが、明確に示されたものはない。	2		カリキュラム改正を機に卒業時の資質について明文化すること	
		4-2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	2			2		カリキュラム改正を機に、社会のニーズを踏まえた資質となるようさらに検討すること	
		5-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	3			3			
	5-2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	2		2					
II 教育目標		1	教育目標は、教育理念・教育目的の一貫性がある。	3	2.3	教育理念を実現するための具体的な教育目的、目標となっている。	3	2.3	自己評価について支持する	
		2-1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	2		教育目的、教育目標に基づき教育課程を編成しており、教育内容は網羅したものとなっている。教育目標はさらに学年別到達目標で具体的に、実現可能なものとして明示されている。	2		カリキュラム改正を機に内容を見直し、さらに改善すること	
		2-2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	2			2		自己評価について支持すること	
		3-1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	2			2		カリキュラム改正を機に、見直し明文化すること	
		3-2	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	2			2			
		4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	3		看護実践者、生涯成長し続ける人材育成、というキーワードのもと教育目標を明示している。	3			
	5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	2		2					
III 教育課程経営	〈教育課程経営者の活動〉	1-1	教育過程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	3	2.5	教育課程編成の考え方を教職員、学生に明示し、これをふまえた活動を行っている。	3	2.5	新人または新任の教職員にも継続して指導すること	
		1-2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	2			2			
	〈教育課程編成の考え方とその具体的な構成〉	1-1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3	3.0	科目構成における方針と設定理由を明確にし教育課程を編成している	3	3.0	整合性が不十分な科目についてはカリキュラム改正を機に見直すこと	
		1-2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3			教育目標の修得に関して段階的に到達度を設定し、さらに目標達成のための学科過程の配列について明示している			3
		1-3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3			3			
	〈科目、単元構成〉	1-1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	3	2.6	単元については教育課程編成の考え方を軸に、各科目担当が構成している。一部に単元の考え方と教育理念・目的、教育目標と整合性が不十分な科目があるため、カリ改正を機に見直す。	3	2.6		
		1-2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	2			2			
		1-3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	2			2			
		2-1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	3			3			
		2-2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	3		3				
	〈教育計画〉	1-1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	3	2.7	学生便覧に明示している。履修については学生に不利益が生じないよう最大限の履修の機会が得られる方法としている。	3	2.7	自己評価について支持する	
		1-2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	2			2		自己評価について支持する	
		2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	3		3	自己評価について支持する			
	〈教育課程評価の体系〉	1-1	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3	2.4	単位認定に関する基準と方法は学生にあらかじめ提示している	3	2.4	自己評価について支持する	
1-2		単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3	3			自己評価について支持する			
2		他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	3	3			自己評価について支持する			
3-1		教育課程を評価する体系を整えている。	2	2			自己評価について支持する			
	3-2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	1		倫理的配慮として評価の目的の説明、個人が特定されない配慮、自由意思による参加、協力の有無により不利益がないことを、文章及び口頭で説明している	1		規程として文章化、整備を検討すること		
〈教員の教育・研究活動の充実〉	1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	3	2.3	領域ごとの担当教員が継続的に領域の科目を担当し、専門性を発揮している	3	2.3	自己評価について支持する		
	1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	2			2		今後、検討し整備すること。		
	2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	3			3		自己評価について支持する		
	2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	1			1		令和3年度からは、新人教員と中堅教員がペアとなり、相互に協力しあう体制を整備すること		

	〈学生の看護実践体験の保障〉	1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	2	2.8	本校の教育理念・目的・目標を実習要綱に明記している。各実習施設の管理者もしくは実習指導責任者に対し、要綱を基に説明を行うことで、本校の教育理念・目的・目標を理解されている。しかし、管理者・実習指導責任者以外の指導者への直接の説明は行っておらず、理解は不十分であると考える。	2	2.8	年度当初の管理者もしくは実習責任者への説明だけではなく、各クールの実習開始前や実習中において、実習場担当教員から直接、現場の指導者への説明を行い、一人でも多くの指導者への理解を深めていくこと
		1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	3		実習指導要項を基に、実習目標・指導観・学生観・教材観などを共有し、指導体制の整備を依頼し、支援体制を整えている。また、臨地実習指導者会議において、実習指導状況の確認、情報交換を行っていることや、学生レディネスファイルを基に、学生のレディネスを共有することで支援体制を整えている。	3		今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、臨地実習指導者勉強会を開催できなかったが、令和3年度は出来る限り開催し、実習施設における学習支援体制の整備を更に進めていくこと
		2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	3		実習指導要項に、各実習における臨地実習指導者の役割を示し、実習開始前に実習場担当教員から説明を行うことで、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	3		現状を維持する。
		2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	3		実習指導要項に、各実習における実習場担当教員の役割を示し、実習開始前に領域担当教員から説明を行うことで、実習場担当教員の役割を明確にしている。	3		現状を維持する。
		2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	3		実習指導要項に、各実習における臨地実習指導者と実習場担当教員の役割を示すことで、お互いの役割を認識するだけでなく、協働するべき指導について確認を行っている。また、臨地実習指導者会議や打ち合わせなどを通して、実習状況や指導方法について共有し、協働体制の強化に努めている。	3		現状を維持する。
		3-1	学生からのケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	3		実習要綱に臨地実習における倫理について示している。また、実習説明・同意書に対象者の権利を尊重することを明示し、実習場担当教員が対象者もしくはキーパーソンに直接説明を行っている。	3		現状を維持する。
		3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	3		全体の実習オリエンテーション、各領域の実習オリエンテーションで、実習要綱を基に学生に対し、臨地実習における倫理について説明し、倫理観をもって学習していくことを指導している。	3		現状を維持する。
		4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	3		臨地実習において、ヒヤリハット・インシデントが発生した場合、早期に教員間で口頭で共有し、ヒヤリハット・インシデントレポートを学生に作成させ、レポートを基に事故の詳細を把握している。インシデントに関しては、実習場担当教員がSHELL分析を行い、教務会議で検討している。また、年度末に実習調整者が1年間の事故の分析を行い、教務会議で共有している。	3		現状を維持する。
		4-2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	2		実習要綱に医療安全について明示し、各学年の実習開始前の全体オリエンテーションで、医療安全に対する教育を行っている。また、ヒヤリハット・インシデントが発生した際に、実習場担当教員による学生への指導および周知を行っている。しかし、計画としては年1回しか安全教育を実施していないことや、臨時の指導においては内容や方法に教員間で差があり、改善すべき現状がある。	2		年に2回は計画的に安全教育を行っていくこと(例えば、3年生に関しては、領域実習の中間となる夏期休暇明けに行う) ヒヤリハット・インシデントが発生した際の学生への安全教育に関しては、臨地実習指導者を中心に、指導方法や内容を検討し、教員間で統一した教育を実施していくこと
IV教授・学習・評価過程	〈授業内容と教育過程との一貫性〉	1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	3	2.8	教育理念や看護師養成所の基本的考え方・留意点をふまえて授業科目を設定しており、教育課程との関係においても学生にとって効果的な授業内容となるように、授業内容の考え方を学生便宜・実習要綱・シラバスで明確化している。	3	2.8	関連する領域の担当教員と情報交換を行い、他領域との整合性、発展性を加味した授業内容とし、学生が理解できるように意図的に反復し理解しているか確認しながら教授していくこと
	〈看護学としての妥当性〉	2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	3			3		
	〈授業内容間の関連と発展〉	2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	3			3		
		3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	3			3		
		4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	2			2		
	〈授業の展開過程〉	1	授業形態(講義、演習、受験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	3	2.8	指導技術については授業内容に適した形態を選択し、ワンパターン化しないように教材・教具を活用しながら実践しており、授業計画等に明示し、実践している。学生の学習を深化、発展させる為に、専門的な単元においては臨地の講師に授業を依頼している。シラバスや実習指導案等に学習目標を明示し、教員間で共通認識を図り、目標達成の為の支援を行っている。	3	2.8	概ね自己評価を支持する 4については、他の講師・教員とも話し合い協力体制の強化をはかること。授業で他教員の協力を得る必要がある場合はシラバスに提示すること。その時々に必要な応援教員の依頼は技術担当と相談しながら教員の負担感が増強しないように配慮すること
		2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	3			3		
		3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	2			2		
		4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	3			3		
	〈目標達成の評価とフィードバック〉	1-1	評価計画を立案し、実施している。	2	2.3	授業評価アンケートによる学生からの直接的な評価の機能を導入し、その結果を踏まえて授業の構成や方法を工夫しており、アンケートの分析結果や実習評価を基に、授業内容の振り返りを行い、次年度の授業内容の検討や指導技術の検討を行っている。	2	2.3	授業評価アンケートを導入し学生からの直接的な評価機能を引き続き実施し改善に役立てること
		1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	2			2		
		2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	2		毎年教務会議で教育目標の達成状況と課題を明確にし、臨地実習施設と共有し、アンケートの分析結果、実習評価を基に、授業内容の振り返りを行い、次年度の授業内容の検討や指導技術の検討を行っている。	2		多面的評価となるような様々な評価方法を取り入れ、また、形成評価を行い学生の理解状況の把握、授業目標の達成状況の把握に努めること
		2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	2			2		
		3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	3			3		
		3-2	単位認定の評価には公平性が保たれている。	3		基準や評価の視点は教務会議等で検討後に明文化し、学生や教員、指導者に明示しており、評価基準に基づき公平に評価を行っている。	3		自己評価について支持する
	〈学習への動機づけと支援〉	1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	3		2.5	組織的、統一的なシラバスの提示、活用ができており、全体でシラバスの見直しを行い学生にとってわかりやすいものとしている。しかし、県外実習については、テキストや環境が不十分であるという点が課題である。		3
		1-2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2	2				

V 経営・管理過程	〈設置者の意思・指針〉	1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	3	3.0	5年間を見据えた中長期的な施設運営方針及び展望をもとに事業戦略を策定している。当機構に所属する看護学校の使命である「勤労者医療に貢献できる優秀な看護師の育成」を主たるビジョンとし、BSCにおいて①利用者の視点②質の向上の視点③財務の視点④効率化の視点⑤組織の学習と成長の視点の各基本方針を明示し、運営会議、職員会議等で共有している。また、学生に対しても教育理念や教育目的について学生便覧や入学時のガイダンス等で周知するとともに、ホームページ等で内外に向け明示している。	3	3.0	自己評価を支持する
		1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	3			3		
		1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	3			3		
		1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	3			3		
		1-5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	3			3		
		1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	3			3		
〈組織体制〉		1-1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	3	3.0	学校の方針や課題については、幹部会議で検討し、その結果を職員会議や運営会議等で職員に周知している。学則や規程については職員会議や運営会議での承認を得て決定している。教務、事務で構成される種委員会やプロジェクトで必要事項を協議し、幹部会議で承認し、職員会議で周知している。	3	3.0	自己評価を支持する
		1-2	意思決定システムが明確になっている。	3			3		
		1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3			3		
		1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	3			3		
		2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3			3		
		2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3			3		
〈財政基盤〉		1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	3	3.0	職員の意見を反映させた運営計画書を作成し、それを基に予算計画を立てている。職員会議においても収支見込、中間収支、決算で経営状況の説明を行い共有化を図っている。高額となる機器や営繕工事については中長期計画を立て、機構本部に要望している。	3	3.0	経年使用により更新が必要な教材備品等については、可能な限り整備を行うことまた学生寮についても不良箇所の点検等を定期的に行うこと
		1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながる。	3			3		
		2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	3			3		
		2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	3			3		
〈施設設備の整備〉		1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	3	2.8	平成29年9月に新校舎が竣工し、併せて機器の更新を図っている。高額となる機器整備や営繕工事については、職員の要望も取り入れながら中長期計画を立て整備を行っている。状況に応じた整備も実施している。(母性看護学内実習教育支援システム、小児看護学内実習教育支援システム、令和3年3月整備) 学校が所在する地区は、岡山県の洪水浸水想定地域に指定されたことから、一次避難が可能となるよう改修を計画し要望している。	3	2.8	自己評価を支持する
		1-2	管理者の考えに基づいて整備計画を立案し、実施している。	3			3		
		2-1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	3			3		
		2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	3			3		
		3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設の整備を検討している。	2			2		
		3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	3			3		
〈学生生活の支援〉		1-1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3	2.7	担任、副担任より定期面接、個別の問題を持つ学生への面接、成績低迷者への学習支援体制があり、実際に活用されている。また、スクールカウンセリングを2回/月に開催しており、活用されている	3	2.7	自己評価を支持する
		1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	3			3		
		1-3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	2			2		
〈養成所に関する情報提供〉		1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。	2	2.5	スタディサプリにおいて適宜案内を行っているが、全員が既読しておらず、周知徹底に繋がっていない。保護者に対しては本来入学式等で直接案内を行っていたが、コロナ禍において保護者へ直接依頼することができていない。学生に対しても再三説明を行っているが周知徹底に繋がっていない。成績低迷者、単位未修得者に対しては担任が面談・電話等の対応をしている。	2	2.5	入学ガイダンスにおいてスタディサプリの周知を図ること登録状況・既読状況に合わせてクラス単位で学生・保護者への既読を促していくこと
		1-2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	2			2		
		2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	3			3		
		2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	3			3		
		3-1	学校説明会(WEB2回)、オープンスクール(対面2回)の自校開催進学ガイダンス(高校開催・業者開催)に参加している県内の高校(25校)への教職員による訪問、学校説明を実施ホームページのリニューアルを行い、当校のカリキュラム、イベント、学生の様子を伝えられる内容に変更した	3			3		
		3-2	学校案内パンフレットの整備、各説明会におけるアナウンスの実施により当校の理念、教育目標等を伝えている	3			3		
〈養成所の運営計画と将来構想〉		1-1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中、長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3	3.0	厚生労働大臣が示す中期目標に基づき、当機構が中長期的な施設運営方針及び展望(H31～R5)を策定している。これを踏まえて、年度毎に目標を定め運営計画を立案している。BSCの活用や自己点検・自己評価委員会活動等により、評価を行い、整合性を備えた取り組みとなり、PDCAサイクルを回しながら発展的に運営している。	3	3.0	自己評価を支持する
		1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	3			3		
〈自己点検・自己評価体制〉		1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	3	2.6	校長を委員長とした自己点検・自己評価委員会が中心となり、意義目的を確認、スケジュールと方法を共有し、自己点検・自己評価に取り組んでいる。評価の低い項目については、改善策を打ち出し計画的に取り組み改善を図っている。令和2年度においては、令和4年度からのカリキュラム改正に向け、評価結果を新カリキュラムの構築に活かすなどの対応を行っている。	3	2.6	学生に授業、実習のアンケートを取るなど改善に取り組んでいることは評価できるPDCAサイクルを回しながら更なる改善を図っていくこと
		1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	2			2		
		2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	3			3		
		2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	2			2		
		2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的・教育目標の維持・改善につながるように機能している。	3			3		
VI 入学		1	教育理念・教育目的の一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	3	3.0	入学者の選抜方法は、合格者決定基準に定めており、それに則って実施している。基準についても状況に応じ適宜見直しを行っている。入学者の状況については、合格者選考会議で教職員等からの意見を聴いたうえで、検証を行っている。	3	3.0	自己評価を指示する
		2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	3			3		
VII 卒業・就業・進学		1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	2	1.3	毎年、基礎看護技術到達度評価は実施している。また令和2年度は教育目標の到達度について、自己評価及び教員評価を実施し結果を分析した	2	1.3	卒業生の就業状況、活動状況を把握、評価し、教育課程にフィードバックするシステムの構築について検討すること
		2-1	卒業時の到達状況を分析している。	2			2		
		2-2	卒業生の就業・進学状況を分析している。	1			1		
		2-3	卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	1			1		
		3-1	卒業時の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	1			1		
		3-2	卒業時の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	1			1		
4	4-1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	1	1					
	4-2	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	1	1					
	4-3	各種式典、病院説明会などの行事の際に、各労災病院幹部との情報交換を行っていたが、コロナ禍における各種行事の変更により、卒業生の状況を捉えることが困難となった。	1	1					
	4-4	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	1	1					
VIII 地域社会/国際交流	〈地域社会〉	1-1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	1	1.5	学生会主催のふれあい祭などを通して、地域住民との交流の場を設けている。在宅看護論実習では、地域で生活する療養者及びその家族と関わりを通して地域で暮らす人々のニーズや地域の特徴を知る機会となっている。しかし、養成所が主体的に地域社会情報を発信したり、地域社会への貢献に対してははや消極的である。	1	1.5	今後、カリキュラム改正に合わせて、地域・在宅看護論の授業や実習を通して、地域の特徴やニーズの把握、地域社会への貢献をカリキュラムに導入していく予定であること
		1-2	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にしている。	2			2		
		2-1	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	1			1		
		2-2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	1			1		
		3-1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	2			2		
		3-2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	2			2		
〈国際社会〉		1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	3	1.8	看護管理の科目において、国際看護の単元を位置づけてグローバルな教育に取り組んでいる。自己学習の支援については、図書室の活用や、インターネットでの情報収集等支援体制強化に努めている。機構のミッションである「勤労者看護が実践できる優秀な看護師の育成」の観点から、現段階では留学生の受け入れや海外での就職活動に関する支援体制の構築は困難である。	3	1.8	
		2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	2			2		
		3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1			1		
		4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1			1		
IX 研究		1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	2	1.3	組織としてキャリア別達成目標を提示し研究活動の必要性について認識はある。研究活動をはじめ自己研鑽に関する要望には配慮する準備はある。また研究費支給により財政面の体制も整備している。しかし業務多忙により実際の研究活動にはつなげられていない。	2	1.3	研究活動につながる支援体制の構築について検討すること
		2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	1			1		
		3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	1			1		
全項目平均				2.5			2.5		